



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 88 号

R4.11.25

文責 中西 勉



良い学び方ができている男川っ子

昨日、岡崎市教育委員会から 2 名の先生が来校され、2 5 学級全ての授業を順に見ていただきました。そして、子供たちが落ち着いて授業に取り組めていることや、チームやグループで協力して学んでいること、タブレットやパソコンなどの ICT 機器を一人一人が有効に活用できていることなど、多くの点でお褒めの言葉をいただきました。このことは、昨日の一斉下校の際に、私から子供たちに伝え、男川っ子の授業面での頑張りを大いに称賛しました。前号で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の大切さについてお伝えしましたが、研究授業のときだけでなく、日頃の授業においてもこの学びが着実に根付いていることを確認でき、大変うれしく思います。今後も子供たちと職員が心をつなげて、子供の学ぶ意欲があふれた楽しい授業を、毎日積み重ねていきたいと思ひます。



▲チームやグループで協力し合いながら意欲的に学ぶ男川っ子



【サッカーW杯】「ドーハの歓喜」～世界を驚かせたアジアのサッカー～

中東のカタールを舞台に、4年に一度のサッカーW杯が開幕しました。今週 2 3 日（水）には、森保ジャパンが初戦に挑み、過去 4 度の優勝を誇る強豪ドイツを相手に、最後まであきらめない姿勢を貫いて、2 - 1 で劇的な逆転勝利を収めました。この歴史的勝利は、同じドーハの地で、1993 年にW杯初出場をかけたイラクとの一戦で、アディショナルタイムで同点に追いつかれてW杯初出場を逃した「ドーハの悲劇」と対比され、「ドーハの歓喜」と称されました。堂安律選手が同点ゴールを決めた瞬間や、浅野拓磨選手が極めて難しい角度から逆転ゴールを奪ったシーンでは、日本中が歓喜の渦に包まれました。

日本がドイツに勝利した前日にも、サウジアラビアが強豪のアルゼンチンに逆転勝ちする快挙を達成しています。連日アジアの国が起こした奇跡は、どうすれば勝てるのかを考え、心をつなげて挑み続ければ、不可能を可能にすることができるということを教えてくれているようです。男川っ子には、その姿勢を学んでもらいたいです。2 7 日（日）のコスタリカ戦でも勝利を収めて、決勝トーナメント進出に大きく近づくことを願っています。



▲浅野拓磨選手の決勝ゴール（日経新聞より）